

令和3年度 大阪府立鳳高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

実施方法 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため書面により実施。  
 回答期日 令和3年10月15日（消印有効）  
 回答数 5

○ 協議事項

1 魅力ある高校、中学生に選ばれる高校となるための広報戦略について

本校では、以前より秋に学校説明会を年に2回開催しており、各回500名以上の中学生とその保護者に参加していただいています。また、中学校や教育産業等が主催する説明会にも積極的に参加し、学校のPRに努めてきました。令和元年度には、学校Webページを単位制や学校のアピールポイントがより際立つようリニューアルしました。

学校教育自己診断では、本校の学校説明会に参加した生徒は約7割いるものの、本校を選択した第一の理由に「単位制であること」と回答した生徒は15%にとどまっています。

（観点1）中学生とその保護者が高校選択の際に重視している情報はどのようなものでしょうか

蒲生委員	①国公立有名大学進学数と進学率 ②著名人の輩出と活躍度 ③教育内容の充実・ユニークさと教育以外（部活・地域貢献など）の活動内容 ④広報誌の印象程度と発行頻度 ⑤通学時の交通の便、安全性と校内環境が良好であること ⑥保護者間や教員間の関係が良好であること。かつ考え方がアクティブで若々しいこと
大槻委員	前提として、限定的な範疇に収まらざるを得ない、普通科単位制自体に大きな魅力を持たせることは、御校に限らず難しいと思います。 ・キャリア、大学進学であると思います。
甲斐委員	・卒業後の進路、就職先等の情報を求めています。
中村委員	・中学生（保護者）が公立高校進学を希望する場合は、自分の学力と内申をもとに、合格可能圏内の高校群の中で行きたい高校を選択するのが通常です。その選択肢の中で最も魅力ある高校合格を目標に中学3年生は努力をします。鳳高校の場合は、地元密着型で自転車での通学も多く、文武両道の校風、関関同立近の進学実績、上位なら大阪公立大学、和歌山大学、大阪教育大学を目指すことができ、高校生活を楽しみたい層が多いように思います。

（観点2）中学生やその保護者が高校のことを知る主な手段は何でしょうか

（先輩からの口コミ、保護者やきょうだいの出身高校、塾等の説明会等も含みます。）

蒲生委員	①オープンキャンパス ②塾などの説明会 ③先輩、在校生による説明・口コミの機会 ④運動会・文化祭への招待、およびその全戸配布案内パンフレット
大槻委員	・先生、塾、周りの大人、先輩、友人という順番のようです。
甲斐委員	・学校見学や塾からの情報を重視しています。
中村委員	・複数開催される大規模の学校説明会がコロナ過で難しい状態では、オープンキャンパスやホームページや中学校や塾からの情報で判断されるでしょう。特に、中学生の学校訪問の機会は確保し大切にして、あこがれの高校に行きたいというイメージを与えてあげないといけません。そのためには現役高校生のキラキラした姿を見せてあげることです。

(観点3) どのような広報手段が中学生やその保護者に対する訴求効果があるでしょうか

蒲生委員	①高校の授業科目や部活を紹介した季刊の高校リーフレットやパンフレットの配布 ②HP (ホームページ) の常時更新と必須の連絡事項に加えて教育以外の部活動を発信。発信先はイントラネットだけではなく、YouTube、F BなどのインターネットSNSにもタイムリーに発信。 ③鳳高校主催の大人向け公開講座の開催、リカレント教育講座の開講 (講師は高校教員または専門講師を招聘)、近隣地域へ配布された内容記載の募集パンフレット
大槻委員	・ SNS や卒業生からの発信
甲斐委員	・ 商業施設でも、館内のポスターやHPよりSNSで情報を取る方が増えています。
中村委員	(観点2) の回答と同じ。

(観点4) 本校のアピールポイントとなる取組等は何だと思われますか

蒲生委員	①一般他校との差異を明確に打ち出すこと。特に単位制のメリットを。 ②伝統と歴史的魅力 ③魅力ある教師と素晴らしい先輩諸氏
大槻委員	・ 鳳高校の伝統や受け継いでいきたい思いなどをしっかりとアピールすることが良いと思います。
北中委員	・ 魅力は何かと聞かれたら、①単位制であること、②広いグラウンドで部活動が活発、その他に教師が熱心に指導してくれること。 ・ 食堂がリニューアルして名物料理なんかがあると楽しいのでは？
中村委員	・ 普通科単位制高校については、ほとんどの保護者や生徒ともに理解はできていないと思います。ですから、普通科単位制高校のメリットと、大学進学には何ら問題がないことをアピールする必要があります。また、令和2年度選抜から志願倍率が若干落ちたのは、数学をC問題に変更し、数学の苦手な生徒が敬遠したからではないかと思われます。

(観点5) 本校について、中学生や保護者がわかりにくいと思っていることは何だと思われますか

蒲生委員	・ 魅力そのもの。どこに魅力があるのか、子弟を通わせるメリットが感じられない。 (備考) 本設問テーマの本質は広報にあるのではなく、高校自体のコンテンツにあります。内容に魅力がある高校であれば、広報戦略は不要だからです。コンテンツを魅力的にする提案を以下で述べます。3年計画で自信をもって内容を充実させましょう。
大槻委員	・ 申し訳ありませんが、確認できておりません。
中村委員	(観点4) の回答と同じ。

2 保護者によるGoogle Workspace for Educationの有効な活用について

(観点1) 本校では、資料9の3(2)に記載のとおり、学校と保護者との間の連絡手段として、Google Workspace for Education等のICT活用を進めていく予定です。また、それに伴い、電話の受付時間帯を平日8時～17時30分に限定することとしました。これらのことについて、どのような不都合等が想定されるでしょうか

(観点2) 学校からの連絡・配付物を確実に届ける手段として他にどのような方法が有効でしょうか

蒲生委員	(観点1) ①受付時間の制限は利点ばかりで不都合な点は今のところ思いつきません。 ②保護者によるICT活用に関しては、Safety、高校関連以外への転用、個人情報の漏洩、著作権侵害などが危惧されます。 【参考】 前記の不都合対策として、トラブル対応や使用法対応などのICT関連部署の立ち上げとスタッフの雇用 (アウトソーシングでも可)。専用電話番号、専用メールアドレスの設定が有効です。この際、生徒・保護者用と教員用は分けるのがよいと思います。また、自動検索サイト、公式Helpを作っておくと満足感が得られます。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	(観点2) ① ICT活用以外に、生徒への手渡し、通達資料の物理的配布など。
大槻委員	①不都合はあまりないと思います。本市においても、令和元年より、小中学校にメッセージ電話を導入しました。朝8時から17時30分～18時30分(学校ごとに時間を設定しているので、差異はあります。また、クラブ等でもう少し遅い時間もあります)。導入当時、保護者連絡等が付きにくくなるのではなどの懸念はありましたが、導入初年度からほとんど苦情等はありません。教職員の働き方改革に寄与している現状です。 ②現時点では思いつきません。
甲斐委員	(観点1) ・各家庭で通信環境が整備されているのであれば、特に問題はないと思われます。対応時間(受付時間)についても、新しい生活様式として慣れていただくしかありません。
北中委員	・保護者が全員Google Classroomに参加できていれば良いのですが、まだ知らない人もいると思われます。そして、知っているも登録の仕方がわからなくて、そのまま放置している方もいるのでは？ 生徒全員が親に配布物を渡してあげれば良いのですが。
中村委員	・大きな不都合は考えられません。ICT化の時代では保護者から歓迎されるでしょう。もちろん、反対の方もいらっしゃいますので、十分説明してから導入した方がよいでしょう。また、相互連絡のチェック体制を整えることが必要です。保護者側が連絡をしたのに、返事が返ってこないなどの問題は起こり得ます。さらに、保護者が連絡を見逃す場合もあり、重要な内容は一度ではなく、何度か再送する必要があります。

### 3 生徒1人1台タブレットPCの効果的な活用について

詳細は資料9にてご説明しますが、現在、校内のネットワーク回線やWi-Fiの環境整備が終了し、近日中に、生徒及び教員が1台ずつタブレット端末を持つこととなります。令和4年度から実施の新学習指導要領では「情報活用能力の育成」が求められ、国においても「GIGAスクール構想」により、鉛筆やノートと同じようにICTを活用することが求められています。

(観点1) 家庭での活用について、どのようなメリットとデメリットがあると思われますか

(観点2) 1人1台であることについて、どのようなメリットとデメリットがあると思われますか

(観点3) 委員の方の職場等では、どのようにICTが活用されていますか

蒲生委員	(観点1・2) a メリット ・対面授業が開催できない場合、または閉校時の双方向のコミュニケーション。 ・フットワークと即応性。 b デメリット ・Safety、高校関連以外への転用、個人情報の漏洩、著作権侵害など c 教員は、タブレットよりノートPCがよい。理由はノートPCの方が教材の制作、マイクやビデオの汎用性、機能性が格段に優れているからです。もっとも、タブレットをサブで所有しておくのは生徒の立場をモニターするためには必須です。 d オンデマンド授業より、リアルタイム同時双方向の方が教育効果は大きいです。オンデマンド型は、いつでも視聴できるとの思いからどうしてもサボってしまうからです。 e ハウリング防止のため、全員にヘッドセットを装着させることが望ましい。訳1,500円で購入できます。 f 自宅でオンライン授業を受けることができない生徒には学校の空き教室を自由に活用させるといいです。
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>(観点3)</p> <p>a 私個人は、スマホ (即時対応やSNS用)、タブレット (生徒画面のモニター用、写真撮影用)、ノートPC (教材作成、ファイルのローカル保存用) を駆使しています。</p> <p>b ICTのサポート用部活として生徒ボランティアを募集しサポート活動させる。興味ある生徒はスキルが身につく。学校側・学生側の双方にメリットが大きい。ただし、管理者アカウントは教員のみ保有とする。</p> <p>c ライセンス付与をオンライン授業・連絡・生徒募集活動・サークル活動・友達活動のすべてを含む。</p> <p>d 情報発信の一元化 (ウェブサイト、メーリングリストともに)</p> <p>e サポート窓口の一元化 (専用ダイヤルを設定)</p> <p>f 自動検索サイト (公式Help) を作っておくなど。</p> <p>g 本学 (京都女子大学) では、全学生に4年間、堅牢で軽量のノート型PCを貸与しています。ソフトはプレインストール。マウスやヘッドセット等は個人持ち。Wi-Fi環境は構内全箇所ですべて完全に整っています。</p>
大槻委員	<p>①いずれにもフィルタリング機能が大きく関与すると思います。本市においても現在検討しています。家庭環境等により個人差が出ないように配慮すること。</p> <p>②自分の思うように扱え、スキルが大いに身につくと思います。その反面、規範意識などの情勢とフェイクに騙されない正しい判断力を身につけさせることなど、実は前時代から生徒指導の基本としてきたことをバーチャル世界でどう育ていけるかは大きな課題と思います。</p> <p>前時代：悪口を書いた紙を机に入れる  現在：チャットやなりすましで悪口  ⇒本来そんなことはするものではないという教育。SNS事案が見えにくくなる中でどのような対応をするか。</p> <p>③資料作成、資料整理、資料保存、メールなど一般的な活用ですが、セキュリティーの観点からインターネットなどはある程度制限を掛けています。</p>
甲斐委員	<p>(メリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙の教材では難しい視聴覚的な表現ができる。反復学習ができる。ICTスキルの習得、効率化。</li> </ul> <p>(デメリット)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危機に不具合が起きた時の対応に時間が掛かる。端末操作に慣れるまで時間が掛かる。他の目的に使用する心配がある。</li> </ul>
北中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>休校になった場合や体調不良で登校できない時、不登校になってしまった時にタブレットは必要になると思います。何らかの理由で壊れてしまった時に弁償しないといけないのは困るので大切に使わせませす。</li> <li>父親がリモート会議で使用しています。</li> </ul>
中村委員	<p>(観点1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭でPCを活用するとすれば、ワードやパワーポイントで宿題やレポートやプレゼンを作成する場合になるでしょう。本当に活用するとすれば、PC用の学習教材が必要になります。それ以外は、動画やSNSやニュースや検索エンジンを使いますが、すでにスマホを使用していますから、タブレットの方が見やすいこととなります。(無条件に使用できると想定した場合です)</li> </ul> <p>(観点2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台の方が便利ですが、共通の目標や最低限のすべき課題を設定しないと、効果的に活用できないかもしれません。上記と同じ内容になりますが、検索エンジンの活用法や情報リテラシーの向上、ワードやエクセルやパワポを自在に活用できるようにする。プログラミングの基礎も習得させる。あるいは、自分で学習できる教材で自習時間を増やすなど、いくらでも活用法はあり得ます。</li> </ul>

	<p>(観点3)</p> <p>・弊社では、顧客情報の一元管理、社内情報の共有化（グーグルドライブを使う）、教材や資料等のデータストック、社員間の連絡、Zoomを使った授業配信や相互会議など、ICT化を進めています。また、HPはもちろん、Web広告、公式LINEを使った会員への連絡や広報活動を行っています。部門ごとに、生徒管理ツールで出欠や連絡を保護者と行っています。高校部では塾生から公式LINEを使った質問も受け付けています。また、弊社が東京大学のAIの専門家である山崎俊彦准教授と共同開発したAI英語学習エンジンで全生徒が学んでいます。（学校でも教材としてご活用できます）</p>
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○ 報告事項についてのご意見・ご質問等

<p>蒲生委員</p>	<p>① 平成30年2月に経済産業省・産業人材政策室から出された「人生100年時代の社会人基礎力」では、「能力を発揮するにあたって、目的、学び、組合せのバランスを図ることが、自らキャリアを切りひらいていく上で必要」と位置付けられています。そこで、以下質問です。</p> <p>ここで示された新たな3つの視点、即ち「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「どう活躍するか」は「新・社会人基礎力」を目標とする時、とても重要です。</p> <p>新たな3つの視点は、令和3年度またはこれ以降の取組み計画のどこに、どのように反映されているのでしょうか。</p> <p>(事務局回答) 令和4年度から実施される新学習指導要領において、学校は、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という3つの視点でカリキュラム・マネジメントを行うよう求められています。これは、「新・社会人基礎力」に示された「どう活躍するか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という視点と重なるものです。したがって、今後は、教育活動における各取組みを3つの視点によって計画・評価していくこととなります。</p> <p>② 資料1と資料3を比較したとき、中期的目標の3が「自立して歩む力」から「チームで働く力」に変更されています。この修正は「新・社会人基礎力」を勘案し妥当だと思いますが、一方で具体的な中身は変更されていません。「チームワーク」（多様性を認め合う）の観点をもっと前面に出された方が良いと思います。</p> <p>③ 同3の6つの能力要素の一つ「状況把握力」は感情を学ぶという意味で「状況把握力」の方が相応しいと思います。</p> <p>(事務局回答) 「新・社会人基礎力」においては「状況」と表記されていますので、次年度以降、修正します。</p> <p>④ 経済産業省の指針には、3つの能力に順番があり、この順も意味を持っています。即ち、シンキング（考え抜く力）⇒チームワーク（チームで働く力）⇒アクション（前に踏み出す力）です。令和2年度の3「自立して歩む力」は削除するのではなくアクション（前に踏み出す力）の中に入れてはどうでしょうか。</p> <p>⑤ 資料4の数値は、カウントに重なりがあるのですか。重複の合格者数であり実質の入学者数ではないのでしょうか。お教えてください。</p> <p>(事務局回答) 資料のうち、(1)～(4)は実人数、(5)～(8)は延べ人数です。</p> <p>⑥ 資料5で、男女別の定員数（議員で言うクォーター制）は設定されていますか。それとも性別にかかわらず最低点で切り、全体で合格数を決定するのでしょうか。</p> <p>(事務局回答) 男女別の定員は設定されていません。入学者選抜実施要項に定められた手順に基づき、性別にかかわらず合格者を決定します。なお、大阪府の公立高等学校入学者選抜においては、志願書の性別欄が廃止されています。</p> <p>⑦ 資料5の「アドミッションポリシー」ですが、全体的に他校との違いが感じられません。特長はどこにあるのでしょうか。2行目の「変化の……切り拓き」までと、6行目「本校入学後も」は不要だと思います。7行目の「単位制システムを十分に</p>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>理解し、」の点ですが、このシステムは理解すべくどこかに明記されているのでしょうか。</p> <p>(事務局回答) 入学者選抜において、志願者は、各高校のアドミッション・ポリシーを参考にして「自己申告書」を作成し、提出することになっています。リード文の内容を細分化したものが(1)～(4)となります。リード文の「変化の激しい…切り拓き」の部分は、社会の変化に流されたり埋もれたりしないような強い意志や行動力、果敢に挑戦する力が必要であることを強調する部分です。また、(2)の「本校入学後も」という文言は、入学者選抜で合格したからと言って気を抜くことなく、中学校の時と同様に向学心を持って勉学を継続してほしいという意図があります。アドミッション・ポリシーの文言は、次年度の公表の際に、このような趣旨を踏まえつつ推敲します。</p> <p>⑧ 資料10について</p> <p>a クラス全体ではなく、一人一人の個人に寄り添った指導・育成をどう実行していくかが大きな課題です。</p> <p>b 平均が目標を達成していても、一人でも未達者や脱落者がいたら全体的に目標は達成できていません。フォーカスをどこにあてるのかは難しい点です。</p> <p>c 「生徒の納得感につながるか」の検証は更に困難だと思われます。すなわち、知識・思考・主体的の積算値が高い結果として、テストの点数が高く表れるはずですが、従って、もし逆にテストの結果が高い生徒の3つの観点が低ければ、該当生徒、およびその保護者両方の納得感を得ることは難しいと思われます。結果としてテストの点数がすべての観点を如実に示しているとも取れます。</p> <p>(事務局回答) 観点別学習状況の評価は、目標に対する達成状況を生徒一人一人について観点別に絶対評価によって表すものです。学期末や学年末に総括的な評価を行うまでに、授業の各段階で形成的評価を行い、少しでも未達者や脱落者を出さないように支援していくことが前提となっています。</p> <p>大阪府においては、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点を「1:1:1」の比率で評価するよう示されています。テストは、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を評価する問題として作成し、点数も「知識・技能」の得点と「思考・判断・表現」の得点として別々に集計するため、得点の偏りがあれば、学期末の総括的評価にも影響します。また、ワークシート、レポート、発表等も評価資料となり、「主体的に学習に取り組む態度」は、テスト以外の評価資料により評価します。したがって、評価全体に占めるテストの割合は、これまでよりも減少することとなります。</p>
大槻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書選定について、他の学校などと情報交換等や選定についての懸案事項などについて、機会があれば直接教えていただけたらと思います。</li> </ul>
甲斐委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度卒業生の進路について、就職先が公務員に偏っているのは以前からですか？</li> </ul> <p>(事務局回答) 本校においては、過去4年間で企業に就職したのは2名のみで、それ以外はすべて公務員です。この傾向は、それ以前からも続いています。</p>
北中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大学、難関私立大学の合格者が増えたこと、とても喜ばしいです。現役で合格した生徒たちは3年間どういう生活を送ってきたのでしょうか？ 1日何時間勉強して来たのか、塾にはいつから通っていたのかなど、生活スタイルが知りたいです。</li> </ul> <p>(事務局回答) 「進路の手引き」に卒業生の合格体験記を掲載しています。また、在校生の希望大学別に卒業生の話を聞く機会を設けております。</p>
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>「観点別学習状況の評価」試行については、興味深く拝見しました。やはり、評価しにくく、むしろ評価と馴染まないように感じます。また、評価基準の客観性は担保できにくいのではないのでしょうか。評価者の負担ばかりが増え、評価のために恣意的な授業を展開せざるを得なくなり、結局は目的から離れてしまうのではないかと危惧されます。</li> </ul>

	(事務局回答) ご指摘の通り、評価基準の設定の難しさと評価者の負担増が課題です。目標設定～(目標を達成するための)授業方法～(目標の達成状況の)評価を一体的に計画するとともに、授業や生徒の学習の改善につなげることが求められているという主旨を見失うことがないようにすることにより、評価のための評価から抜け出すことが可能であると考えています。
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○ 協議事項として取り上げるべき内容、提案

蒲生委員	<p>① 本運営協議会ですが、対面会議が不可能な場合は、顔の見えるリアルタイム・オンライン会議（ZoomやTeamsなど）で行っていただきたい。  <b>【理由】</b>（１）詳細な意見交換がタイムリーに可能で、かつ学校側から背景や具体的な説明を聞くことができる。（２）書面では不必要に時間が掛かり、かつ不正確な理解が往々にして生じる。  <b>(事務局回答)</b> 今後は、Zoom等を用いたオンラインによる会議も実施方法の一つとして取り入れます。</p> <p>② 鳳高校の更なる魅力強化策（差別化戦略）と新設すべき科目の提案  a インターンシップ制度を新設し単位認定する。  b 地域連携・地域交流を強化推進する。  c キャリアデザイン（キャリア開発）科目の新設、必修化を行う。この科目で社会人基礎力を教える。  d 日本語教師科目を新設する。  e 金銭関係学（税金、保険、生涯年収等お金に関することを学ぶ）を新設する。  f ボランティア活動学を新設する……など</p> <p>③ 一歩先行く大学教育を経験させるための方策について  今までも何度か申し上げましたが、鳳高校の参考（または模範）とする施策は中学にあるのではなく、大学（特に1～2年生の教養部）にあると思われます。文科省の許諾範囲でどんどん新規施策に挑戦すべきだと思います。挑戦モデルはすでに完全に単位制を取っている大学にあります。  <b>(事務局回答)</b> 学ぶ意味を理解し、学ぶ方法を身につけるためにも大学の授業について知ることは重要であると考えております。</p>
大槻委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学進学とその後の生徒のキャリアも見据えた教育など。</li> <li>・高校入学後に不登校や中途退学になる生徒についての支援。</li> </ul>
北中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は、コロナのために修学旅行には行けず、一生のうちの高校生活の大切な思い出がなくなってしまうかもしれません。今後は、中止には絶対せずに済むよう計画してください。</li> </ul>